

🦋 4月27日(土) 午後6時30分開始

🦋 文京シビックホール 会議室1・2

文京シビックセンター3階 (東京都文京区春日1-16-21)  
丸の内線・南北線「後樂園」駅および三田線・大江戸線「春日」駅1分  
JR総武線「水道橋」駅東口9分

🦋 資料代 500円

🦋 ゲスト

松島 泰勝さん ▼



▲ 金城 実さん

映像あります!

67年前の4月28日、沖縄は、「サンフランシスコ講和条約」によって日本から切り離されました。その背景には、天皇裕仁による「沖縄を25年から50年間、あるいはそれ以上の長期、どうぞお使いください」という米軍人・マッカーサー宛の書簡がありました。

天皇の命と天皇制存続のための“貢物”とされた歴史をもつ沖縄から見て、今の「天皇代替わり」は、どう映るのでしょうか。沖縄から二人のゲストを迎え、沖縄にとっての天皇制について伺います。

「琉球遺骨返還請求訴訟」を知っていますか?

「昭和」の初期(1929年)、旧京都帝国大学の金関丈夫助教授が、琉球・今帰仁の百按司墓(琉球王家・第一尚氏の墓)を暴き、少なくとも59体を持ち去り、京都大学がそのうちの26体を占有している問題。

昨年(2018年)12月4日、第一尚氏の子孫らが遺骨の返還などを求めて京都地裁に提訴しました。国立大学によるこの行為からは、現在も続く植民地支配が見えます。当日、裁判の経過についての報告があります。

金城 実 (きんじょう みのる)

彫刻家。1939年、沖縄・浜比嘉島生まれ、読谷村在住。

「琉球遺骨返還請求裁判」の原告の一人

西宮西高等学校等で英語教諭の傍ら、創作を始めた。

1986年に沖縄県読谷村で彫刻制作。沖縄靖国訴訟原告団団長。

主な作品:「残波大獅子」「チビチリガマ世代を結ぶ平和の像」

その他

主な著書:『沖縄を彫る』現代書館1987年、

『沖縄から靖国を問う』宇多出版企画2006年ほか

松島 泰勝 (まつしま やすかつ)

龍谷大学経済学部教授。1963年、石垣島生まれ。

「琉球遺骨返還請求裁判」の原告の一人。

2013年5月15日、発起人として琉球民族独立総合研究学会を設立した。

主な著書:『琉球独立への道』法律文化社2012年、『琉球 奪われた骨—遺骨に刻まれた植民地支配』岩波書店2019年、『大学による盗掘』耕文社2019年

—琉球遺骨返還請求訴訟支援—

沖縄にとっての天皇制

主催: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 電話090-3910-4140